

2018年3月期第2四半期決算(累計) プレゼンテーション資料

2017年10月 大阪ガス株式会社

1



大阪ガスの本荘でございます。

本日は、お忙しいところ、当社の決算説明会にお集まりいただき、 ありがとうございます。

また、平素は、当社事業につき、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

I. 18.3期上半期振返り

S OSAKA GAS

決算のご説明の前に、上半期の振返りについて、少しお話しをさせて いただきます。

2

18.3期上半期振返りつ電力・ガス小売全面自由化

- ・「ガス・電気の料金メニュー」、「高品質な安心安全」、「暮らしのワンストップ でのサポート」のトータルでのサービスを提供し、お客さまアカウントの最大化に 向けた活動に注力
- ・電力や各種サービス・契約の獲得により、アカウントは増加

電力獲得件数 累計約50万件

お客さまアカウント※1の最大化

上半期:+8万件(累計808万件)

都市ガス、電力、LPG、エネファーム、 住ミカタ・プラス、らく得保証、安心安全サービス、 ユーティリティ・エージェント*2契約等 ※1 都市ガス、電力、LPG、エネファーム、 住ミカタ・サービス、ユーティリティエージェント 契約等の延べ件数



ライフスタイルに応じた ガス・電気の料金メニューの拡充

- もっと割料金(4月~)
- あきない割料金(4月~)
- ・電気料金の値下げ(8月~)

高品質な安心安全の実現

- ・IoT対応の省エネ給湯器 「エコジョーズ」を発売(8月~)
- ・通信を利用してお客さま宅を見守るサービス「みるぴこ」を発売(9月~)

お客さまの暮らしを ワンストップでサポート

・住ミカタ・プラス (4月~)

※2(株)OGCTS及び大阪ガス(株)の登録商標。ユーティリティ(ガス・電気・水など)に関する設備を持ち込み、保守・管理サービスからエネルギー調達までお客さまに代わり、一括でご提供

3

SOSAKA GAS

ご承知のように、今年の4月よりガス小売の全面自由化がスタート致しました。新たに自由化された小口分野において、現時点までに20万件以上のスイッチがあり、大変厳しい状況だと認識しています。一方で電力小売供給件数が累計約50万件となったことは、大きな成果であると考えています。

当社では、お客さまに選ばれるためには、「ガス・電気の料金メニュー」、「高品質な安心安全」、「暮らしのワンストップでのサポート」のトータルでのサービスが重要であると考え、その充実を図る取り組みを行っております。

「料金メニュー」に関しては、4月よりガスの自由料金のメニューとして、「もっと割料金・あきない割料金」を新設致しました。「もっと割料金・あきない割料金」への加入は順調に進捗しております。

また、8月には昨年よりご提供しております「大阪ガスの電気」の電気料金の値下げも行いました。現在も電力の獲得ペースは引き続き堅調に推移しております。

また、さらなる「高品質な安心・安全の実現」に向けて、8月には、 I o T対応の省エネ給湯器「エコジョーズ」を発売しました。スマート フォン専用アプリで、入浴見守りやヘルスケア管理など、より「スマートで 安心・快適な暮らし」を実現する新たな機能やサービスを追加していま す。

9月には、通信を利用して、24時間365日ガス漏れや火災を監視したり、ガスのご使用状況を電話やメールでお知らせするサービス「みるぴこ」を発売しました。

「お客さまの暮らしのサポート」に関しては、2016年度から実施しております、水まわり修理やエアコン修理、ハウスクリーニングなどをワンストップでお届けする「住ミカタ・サービス」に加え、月々の定額料金をお支払いいただくことで、「住まいトラブルの駆けつけサービス」と「暮らしのサポートサービス」を提供する、「住ミカタ・プラス」を4月から新たに開始しております。

また、長期ビジョンで掲げているお客さまとの延べ契約件数であるお客さまアカウントの最大化に向けた活動に注力致しました。既存顧客のガスの離脱はありましたが、それを上回る新規のガスや電力の契約、エネファームの販売や、らく得保証、安心安全サービスなど各種サービスの契約を獲得することで、お客さまアカウント数は、上半期で8万件増加しています。

引き続き、Face to Faceのチャネルを中心に、お客さまとのコミュニケーションを大事にしながら、お客さまアカウントの最大化に努めたいと考えています。

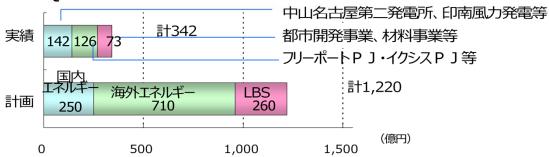
18.3期上半期振返り2成長投資計画の進捗状況

<投資実績>

- ・国内エネルギー事業:142億円(主に発電所)
- ・海外エネルギー事業:126億円(参画済み案件への継続投資)
- ・ライフ&ビジネス ソリューション (LBS): 73億円 (主に都市開発事業、材料事業)

<意思決定>

- ・市原市のバイオマス発電所、川崎市の都市ガス製造供給新会社、情報会社の取得等
- 第20の累計投資実行額は342億円(年間計画の28%)



- 上半期の新規意思決定案件
 - ・千葉県市原市におけるバイオマス発電所の事業化決定
 - ・川崎市扇島地区における都市ガス製造および供給の新会社設立
 - ・株式会社アグニコンサルティングの全株式取得(オージス総研)

4



中長期ビジョンの柱の一つである成長投資につきまして、上半期の累計投資実行額は342億円となりました。

内訳は、国内エネルギー事業142億円、海外エネルギー事業126億円、ライフ&ビジネス ソリューション73億円となります。

国内エネルギー事業では、主に中山名古屋第二発電所や印南風力発電所等の発電事業に投資致しました。なお、中山名古屋第二発電所は9月に稼働開始しております。

海外エネルギー事業では、主に参画済みのフリーポートプロジェクトやイクシスプロジェクトの完工に向けた投資を進めております。

LBS事業では、主に都市開発事業への投資を行いました。

また、上半期に新たに投資の意思決定を行った案件として、9月には千葉県市原市におけるバイオマス発電所の事業化の決定や、川崎市扇島地区における都市ガス製造および供給の新会社の設立を決定致しました。

10月には、オージス総研が、株式会社アグニコンサルティングの全株式を取得致しました。

引き続き、成長のための投資を進めてまいりたいと考えています。

18.3期上半期振返り③主なトピックス

ガス

. LPG 8月 液化石油ガス(LPG)卸売・小売事業を再編統合、 新会社「エネアーク」設立

8月 日本初、I o T対応の省エネ給湯器「エコジョーズ」を発売

9月 通信を利用してお客さま宅を見守るサービス「みるぴこ」を発売

9月 川崎市扇島地区における都市ガス製造および供給の新会社設立

電力

9月 中山名古屋第二発電所(G&P)の営業運転開始

9月 千葉県市原市におけるバイオマス発電所の事業化決定

海外

5月 タイ国Yokohama Tire Manufacturing 社向け オンサイトエネルギー供給プロジェクトの供給開始

LBS

10月 株式会社アグニコンサルティングの全株式取得(オージス総研)

ESG

9月 ダウ・ジョーンズ・サスティナビリティ・ワールド・インデックスに初選定

※プレスリリース実施月を記載

5



こちらのページには、上半期にプレスリリースを行った主な案件を掲載しております。

これからますます競争が激しくなると予想される中、厳しいながらも確実に将来への布石を打つことが重要だと考えています。長期ビジョンで掲げた「Going Forward Beyond Borders」を着実に実践し、時代を超えて選ばれ続ける革新的なエネルギー&サービスカンパニーを目指していきたいと考えています。

それでは、第2四半期の決算のご説明に移らせていただきます。

Ⅱ. 18.3期第2四半期実績

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています:下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。 http://www.osakagas.co.jp/company/ir/

「**見通し」に関する注意事項** :このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

6

ガス販売量に関する注記:全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記: 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

SOSAKA GAS

18.3期第2四半期決算のポイント

対前年比較

概況(連結)

売上高	電力販売量の増加、スライド影響等により、 前年比9.8%(522億円)増収の5,846億円
経常利益	スライド影響等により、前年比27.3%(136億円)減益の364億円 スライド影響を除くと、家庭用ガス販売量の増加等により、 前年比32.5%(106億円)増益の433億円

ガス販売量(個別)

家庭用	春先の気水温が低く推移し、給湯・暖房需要が増加したこと等により、
	前年比2.5%(19百万m³)増加の765百万m³
業務用等	設備稼働増や需要開発による増加があったが、発電用需要の減少、
	発電設備の自社電源化に伴うガス販売カウント方法の変更等により、
	前年比0.6%(18百万m³)減少の3,203百万m³

電力販売量(連結)

国内電力	卸・小売の販売量が共に増加したことにより、
販売量	前年比 17.8%(759 百万 kWh)増加の5,022 百万 kWh

7



7ページをご覧下さい。こちらに決算のポイントをまとめております。

2018年3月期 第2四半期は、増収・減益の決算となりました。

売上高は、電力事業での販売量が増加したことや、スライド影響等から、

前年と比べて9.8%増収の5,846億円となりました。

経常利益は、スライド差益の減少により、ガス事業粗利が減少したこと等から、 前年と比べて27.3%減益の364億円となりました。

ガス販売量について、家庭用は、春先の気水温が低く推移したこと等から、前年を2.5%上回る7億6,500万立方メートルとなりました。

業務用等は、お客さま設備の稼働の増加や需要開発が進んだ一方で、発電用需要の減少、発電設備の自社電源化に伴うガス販売カウント方法の変更等により、前年を0.6%下回る32億300万立方メートルとなりました。

連結の電力販売量については、卸・小売の販売量が共に増加したことにより、前年を17.8%上回る50億2,200万kWhとなりました。

18.3期第2四半期ガス・電力販売実績

45MJ/m³		A. 18.3 期 2Q	B. 17.3 期 2Q	A-B	(A-B)/B(%)
	ガス供給件数(千件)*	6,076	6,211	-135	-2.2%
個	新設工事件数(千件)	47	45	+3	+6.0%
	家庭用1戸当り販売量(m³/月)	21.6	20.9	+0.8	+3.6%
別	家庭用	765	746	+19	+2.5%
	業務用等	3,203	3,222	-18	-0.6%

3,985 3,986 *今年度より、お客さま数(取付メーター数)からガス供給件数に変更しています。ガス供給件数は、取付メーター数から空家などの 閉栓中メーター数、他社のガスをお使いの方を除いた、現在当社のガスをご使用中のお客さまの数です。

3,968

3,968

電力販売量(連結)

連結ガス販売量

ガス販売量合計(百万m³)

ガス販売量

	8			SOSAKA G
国内電力販売量(百万kWh)	5,022	4,263	+759	+17.8%
卸等	4,079	3,945	+134	+3.4%
小売	943	318	+625	+196.4%
	A. 18.3期2Q	B. 17.3 期 2Q	A-B	(A-B)/B(%)

YUSAKA GAS GROUP

+0

+1

+0.0%

+0.0%

次のページに、ただ今ご説明しましたガス販売量実績、電力販売量 実績をまとめております。

18.3期第2四半期実績 I

連結:億円、()内は連単倍率									
	A. 1	8.3 期 2Q	B. 17	7.3 期 2Q	A-B	(A-B)/B(%)	備考		
売上高	(1.27) 5,846		(1.29)	5,323	+522	+9.8%	電力販売量の増加等		
営業利益	(1.9	(1.98) 332		499	-166	-33.5%	ガス事業粗利の 減少等		
経常利益	(1.55) 364		(0.98)	501	-136	-27.3%	ガス事業粗利の 減少等		
スライド影響除く 経常利益	43			327	+106	+32.5%	家庭用ガス販売量増加 等		
四半期純利益	° 1 (1.3	238	0.84)	333	-95	-28.6%	*1 親会社株主に帰属する 四半期純利益		
EBITDA		778		907	-129	-14.2%			
		A. 18.3	期2Q	B. 17.3	期 2Q	A-B	備考		
スライド差損益	億円		-68		174	-243	_		
原油価格	\$/bbl	*2	51.4		43.8	+7.6	*2 18.3期2Q原油価格実績は、 9月速報値までの平均。		
為替レート	円 /\$	1	11.0	1	.05.2	+5.8	5万体報順までの十均。		
連結子会社数			148		147	+1			
				9			SAKA GAS		

9ページには、決算数値をお示ししています。

18.3期第2四半期実績 II

200	100 - 100 Hall (100		D 00-01 (0-01			
連結:億円	A. 18.3期		17.3	期	A-B	備考
	2Q 末	20	Q 末	B. 期末		
総資産	18,636	1	7,112	18,865	-229	流動資産の減少等
自己資本	9,770		8,816	9,619	+151	
有利子負債	5,272	!	5,466	5,406	-134	
在籍人員(人)	21,107	2	1,009	20,762	+345	
自己資本比率	52.4%	5	1.5%	51.0%	+1.4%	
D/E 比率	0.54		0.62	0.56	-0.02	
	A. 18.3 期	20	R 1	7.3 期 2Q	A-B	備考
	₩. TO'O₩	2Q	D. 17		70	VA 75
設備投資		405	D. 17	348	+57	Cr iAN
設備投資 減価償却費			D. 17			C. WA
		405	D. 17	348	+57	C+. BM
減価償却費		405 437	D. 17	348 416	+57 +20	Cr. WA
減価償却費 フリーキャッシュフロー	1.	405 437 220	D. 17	348 416 221	+57 +20 -1	Co. Bun
減価償却費 フリーキャッシュフロー ROA	1. 2.	405 437 220 .3%	D. 17	348 416 221 1.9%	+57 +20 -1 -0.6%	ガス事業粗利益の減少等
減価償却費 フリーキャッシュフロー ROA ROE EPS (円/株) BPS (円/株)	1. 2. ! 2,34	405 437 220 .3% .5% 57.3 49.3		348 416 221 1.9% 3.7% 80.2 2,119.3	+57 +20 -1 -0.6% -1.3% -22.9 +230.9	ガス事業粗利益の減少等
減価償却費 フリーキャッシュフロー ROA ROE EPS (円/株)	1. 2. ! 2,34	405 437 220 .3% .5% 57.3 49.3		348 416 221 1.9% 3.7% 80.2 2,119.3	+57 +20 -1 -0.6% -1.3% -22.9 +230.9	

資産・負債項目や、主な財務指標の実績は、ご覧の通りです。

18.3期第2四半期成長投資実績

18.3期2Qの投資実行額は342億円(年間計画の28%)

・国内エネルギー: 142億円(主に発電所)

・海外エネルギー: 126億円(参画済み案件への継続投資)

・ライフ&ビジネス : 73億円 (主に都市開発事業、材料事業)

ソリューション

※投資実行額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります。

18.3期の成長投資(実績)



成長投資の進捗は、冒頭で申し上げましたとおりです。

18.3期第2四半期セグメント別実績

セグメントを見直し、18.3期より次の4セグメントを新たに設定いたしました 「国内エネルギー・ガス」「国内エネルギー・電力」「海外エネルギー」「ライフ&ビジネス ソリューション」

単位:億円	売上高		セグメン	小利益*	備考
	18.3期 2Q	17.3期 2Q**	18.3期 2Q	17.3期 2Q**	
国内エネルギー・ ガス	4,360	4,097	134	360	売上:ガス販売単価の上昇等 利益:スライド差益の減少等
国内エネルギー・電力	708	488	94	84	売上:電力販売量の増加等 利益:電力販売量の増加等
海外エネルギー	107	64	18	-16	売上:ゴーゴンPJ稼働等 利益:出光スノーレ等で増加
ライフ&ビジネス ソリューション	955	958	78	69	売上:概ね前年並み 利益:不動産事業等で増加
消去又は全社	-285	-285	16	1	
連結	5,846	5,323	341	498	

* セグメント利益=営業利益+持分法投資損益

** 17.3期2Q実績を18.3期より設定した新セグメントで試算した数値

12

SAKA GAS

12ページにはセグメント別実績を掲載しております。

「国内エネルギー・ガス」のセグメント利益は、前年同期のスライド差益の 反動などにより、前年より188億円減少の134億円となりました。

「国内エネルギー・電力」のセグメント利益は、電力販売量の増加などにより、前年より10億円増加の94億円となりました。

「海外エネルギー」のセグメント利益は、北海油田における持分法による 投資利益が増加したことなどにより、前年より34億円増加の18億円となり ました。

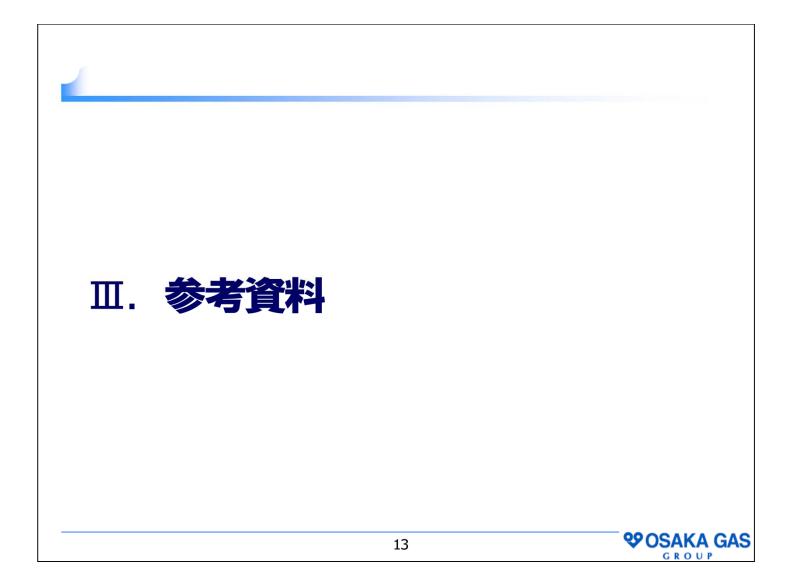
「ライフ&ビジネス ソリューション」のセグメント利益は、不動産事業での増益などにより、前年より9億円増加の78億円となりました。

13ページ以降には、売上高・経常利益について、前年差異の要因分析資料等を付けておりますので、後ほどご覧下さい。

なお、2018年3月期の業績見通しにつきましては、4月発表時から変更 はございません。

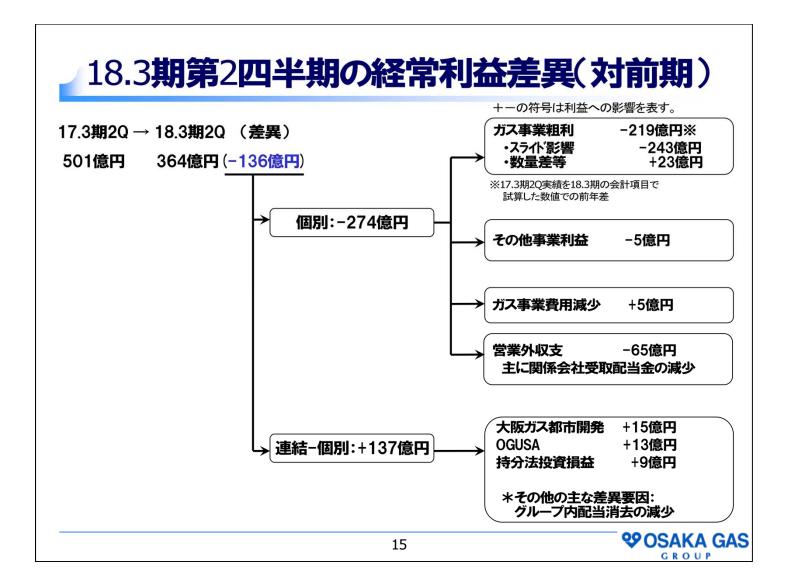
以上で、2018年3月期 第2四半期決算についてのご説明を終わらせていただきます。

12



18.3期第2四半期の売上高差異(対前期)

17.3期2Q → 18.3期2Q(差異) 5,323億円 5,846億円 (+522億円) ガス事業売上高 +155億円※ ・スライド影響 +149億円 ·数量差等 +6億円 ※17.3期2Q実績を18.3期の会計項目で 個別:+489億円 試算した数値での前年差 その他売上高 +322億円 主に電力事業 連結-個別:+32億円 **SOSAKA GAS** 14 GROUP



家庭用 ガス販売

18.3期2Q実績

	対前期	備考
調定件数	-1.1%	
気水温影響	+5.5%	平均気温23.7度(対前期-0.4度)
その他	-2.0%	ガス機器の高効率化、世帯人数減少等
合計	+2.5%	



18.3期見通し

4/26公表の見通しから変更なし

■ 平年気温を前提とし、ガス機器の効率化、世帯人数の減少、離脱影響等を 織込むことで、前年比+0.4%、8百万m³増の2,111百万m³を見込む。

業務用等 ガス販売

18.3期2Q実績

	対前期	備考
需要開発	+1.0%	設備導入、燃料転換等
気水温影響	+0.2%	
設備稼働増減	+1.8%	景気影響による稼働増
個別要因	-2.5%	特殊要因(発電需要の減少等)によるお客さま先での減少
その他	-1.1%	当社関係会社の発電設備の自社電源化
合計	-0.6%	



18.3期見通し

4/26公表の見通しから変更なし

 発電需要の減少や当社関係会社の発電設備の自社電源化に伴うガス販売の カウント方法の変更影響などを織り込み、前年比-8.4%、552百万m³減の6,008 百万m³を見込む。

17

年度見通しに対するリスク要因

■ 気温·水温

気・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約7%・夏期約8%・冬期約6%変動する可能性がある。

■ 原油価格

■ LNG価格は原油価格にリンクすることなどから、原油価格+1\$/bblの変化に対し、 今年度第3四半期以降の経常利益は-7億円変動する可能性がある。

為替レート

■ LNG価格が米ドル・円の為替レートにリンクすることなどから、為替レート+1円/\$の変化に対し、今年度第3四半期以降の経常利益は-10億円変動する可能性がある。

■ 原料費

原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁 されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を 与える可能性がある。

金利

■ 金利+1%の変動に対して、18.3期の連結営業外収支が年間-4億円変動する 可能性がある。

IV. 参考資料 (2) - 18.3期見通し

4月発表時の見通しから、変更ありません。

19

18.3期ガス・電力販売見通し

■ ガス販売量

451	MJ/m ³	A. 18.3 期 見通し	B. 17.3 期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
個	家庭用	2,111	2,103	+8	+0.4%
別	業務用等	6,008	6,560	-552	-8.4%
ガス販売量合計(百万m³)		8,118	8,662	-544	-6.3%
連結ガス販売量(百万m³)		8,150	8,694	-544	-6.3%

■ 電力販売量(連結)

(百万 kWh)	A. 18.3 期	B. 17.3 期	前年差	前年比
	見通し	実績	A-B	(A-B)/B
国内電力販売量	10,303	8,948	+1,355	+15.1%

18.3**期見通し** I

連結:億円		A. 18.3 期	B. 17.3 期	前年差	前年比
		見通し	実績	A-B	(A-B)/B
売上高		13,445	11,838	+1,606	+13.6%
営業利益		665	972	-307	-31.6%
経常利益		640	962	-322	-33.5%
当期純利益*		425	612	-187	-30.6%
SVA**		175	333	-157	-47.4%
スライド差損益	億円	9	137	-128	
原油価格	\$/bbl	55.0	47.5	+7.5	
為替レート	円 /\$	115.0	108.3	+6.7	

21

^{*} 親会社株主に帰属する当期純利益

^{**} SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本 × WACC

18.3**期見通し** II

連結:億円	A. 18.3末見通し	B. 17.3 末実績	A-B			
総資産	18,429	18,865	-436			
自己資本	9,455	9,619	-164			
有利子負債	5,433	5,406	+26			
在籍人員(人)	21,374	20,762	+612			
自己資本比率	51.3%	51.0%	+0.3%			
D/E 比率	0.57	0.56	+0.01			
設備投資	925	886	+38			
減価償却費	859	862	-2			
フリーキャッシュフロー	819	1,005	-185			
ROA	2.3%	3.3%	-1.0%			
ROE	4.5%	6.6%	-2.0%			
EBITDA	1,570	1,884	-314			
	合影響を 102.2	147.3	-45.1			
BPS (円/株) 考慮し	2,2/3.1	2,312.7	-39.5 #投资による支出			

18.3期セグメント別見通し

セグメントを見直し、18.3期より次の4セグメントを新たに設定いたしました 「国内エネルギー・ガス」「国内エネルギー・電力」「海外エネルギー」「ライフ&ビジネス ソリューション」

単位:億円	売」	売上高 セグメント		小利益*	備考
	18.3期 見通し	17.3期 実績**	18.3期 見通し	17.3期 実績**	
国内エネルギー・ ガス	10,195	9,112	290	552	売上:ガス販売単価の上昇等 利益:スライド差益の減少等
国内エネルギー・ 電力	1,670	1,075	140	162	売上:電力販売量の増加等 利益:販売価格の下落等
海外エネルギー	250	226	40	80	売上:豪州LNG PJにおける増加等 利益:フリーポートPJ関連等で減少
ライフ&ビジネス ソリューション	2,085	2,083	190	186	売上・利益: 概ね前年並みで推移
消去又は全社	-755	-659	22	9	
連結	13,445	11,838	682	990	

* セグメント利益=営業利益+持分法投資損益

** 17.3期実績を18.3期より設定した新セグメントで試算した数値

23

